

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会
「平成 20 年度 第 1 回 議事録」

日時	平成 20 年 4 月 11 日(金) 10:30 ~ 15:00		場所	地盤工学会会議室	
委員長	後藤 聡		幹事	豊田 浩史	
幹事	川崎 了		委員	森田 宏	
委員	小橋 秀俊	×	委員(WG1)	杉井 俊夫	
委員(WG1)	細野 高康		委員(WG2)	川口 正人	
委員(WG2)	太田 岳洋	×	委員(WG3)	渡部 要一	×
委員(WG3)	山本 肇	×	委員(WG4)	仙頭 紀明	×
委員(WG4)	畠山 正則		委員(WG4)	上原 真一	×
委員(WG5)	横田 聖哉		委員(WG6)	平井 貴雄	
委員(WG8)	石川 達也		オブザーバ	三谷 泰浩	

:出席 ×:欠席

議事録担当:豊田 浩史

配布資料:(下線は当日追加資料)

資料番号なし:平成 20 年度第 1 回室内試験規格・基準委員会議題書

資料 20-1-1:平成 20 年度室内試験規格・基準委員会の名簿

資料 20-1-2:平成 19 年度第 6 回室内試験規格・基準委員会議事録

資料 20-1-3:ベンダーエレメント試験方法基準化検討 WG メンバー(案)

資料 20-1-4:平成 20 年度室内試験規格・基準委員会予算配分案

資料 20-1-5-1:WG1 活動状況、対比表および基準改正案

資料 20-1-5-2 (1):WG2 「土の陽イオン交換容量(CEC)の試験方法」公示文および基準案

資料 20-1-5-2 (2):WG2 化学試験基準案と解説案

資料 20-1-5-2 (3):WG2 公示文案

資料 20-1-5-3:WG3 公示文案

資料 20-1-5-4:WG4 JIS 書式基準

資料 20-1-5-4(2):WG4 公示文案

資料 20-1-5-5:WG 5 公示文および改正案

資料 20-1-5-6:WG6 解説目次案

資料 20-1-5-7:欠番

資料 20-1-5-8:WG8 特殊土の試験 第 2 回議事録

資料 20-1-6:「土質試験の方法と解説」改訂版のタイトルについての提案書

資料 20-1-7:出来上がりページ数と目次案

資料 20-1-8-1:印刷・製本仕様書

資料 20-1-8-2:学会基準の刊行に関する検討 WG 報告書

資料 20-1-9:岩盤不連続面の一面せん断試験方法の解説

資料 20-1-10 編集工程

資料 20-1-11:平成 19 年度第 1 回室内試験規格・基準委員会幹事会議事録

資料 20-1-12:平成 19 年度第 6 回基準部会議事録(案)

議 題：

【審議事項】

(1) ベンダーエレメント試験方法基準化検討 WG のメンバーについて

資料 20-1-3 により、ベンダーエレメント試験方法基準化検討 WG のメンバー案が示されこれを認めた。このメンバー案を基準部会に上申する。

(2) 今年度の予算配分について

資料 20-1-11 の幹事会議事録により、配分の基本方針が示され、平成 20 年度の予算配分を承認した。昨年度は一般会計が赤字となったため、今年度は事務局とよく相談しながら赤字とならないように努める。

(3) 基準の見直し・改正について

全体：

4 月 17 日までに修正した公示文案と基準案を事務局と幹事に提出し、4 月 18 日に基準部部員に電子ファイルを送付する。学会誌に掲載する公示文に関しての細かな書式は事務局と幹事が調整する。基準案に関しても HP に掲載する 6 月末日まで小修正は可能である。

「せいけい」については次のように使い分ける。

成形：土や岩を削ったりすることで所定の形にする行為全般のこと。円柱供試体の場合、側面のについては、この「成形」を使用。

整形：供試体の特に端面の成形について使用し、仕上げの意味を含む。円柱供試体の場合、上下端面については、この「整形」を使用。

成型：モールドに入れて供試体を作製する場合に使用し、コンクリートや礫材などの供試体を型枠に入れて作成する際に使用。土質材料の「締固め」についても使用。

WG1：

- ・ 項目 a), b)・・・のまえに一文入れる等の小修正を行う。
- ・ 岩関係の基準を収録したことは、各章に書くのではなく、第 1 編もしくは第 1 章のみその旨を記載することとする。
- ・ 解説で ISO や ASTM 規格を引用した場合、これを引用・参考文献にあげるべきかについて議論した。現在の赤本では引用・参考文献にあげていないようであるが、岩関係の解説はあげるようにしている。今回の会議ではペンディングとし、今後も議論していくこととした。
- ・ 個人に対して転載許可を取る場合、必要事項の情報があれば、事務局より手続きを行うことも可能である。

WG2：

- ・ 基準部会の意見を取り入れ修正された CEC 基準案が示された。「6.3 計算」内の CEC 濃度の濃度と $c \cdot \text{mol}(+)/\text{kg}$ のを削除する。CEC は計算式内であっても斜体とせず正体とする。
- ・ リットルは l で表示するものとする。ただし、まぎらわしくなる場合は、その旨を記述して違う表記を使うことも可能である。

- ・ 10ml-Na/l のようにハイフン「-」を入れるべきかどうか ISO 規格を調査する。

WG3 :

- ・ JIS 規格と全く同じ公示文なら，学会誌 2008 年 2 月号 40，41 ページに掲載したとおりである，とする方法も考えられるため，WG 幹事とも相談しながら進める。
- ・ JIS 規格のヘッダーを学会基準と直して，「成型」を「成形」と直したものを基準部会に提出する。

WG4 :

- ・ 2 節のタイトルは「2 引用規格及び基準」とする。
- ・ 「1 適用範囲」に書かれた注記（本基準と部分的に異なる方法を用いた場合には・・・）は削除し，「報告」に書くこととする。
- ・ 項目 a), b)・・・のまえに一文入れる等の小修正を行う。

WG5 :

- ・ 10mm ~ 15mm のように両方に単位を入れる。漢字の場合は，2 ~ 2.5 倍のように後の方につければよい。
- ・ JIS 規格と JGS 基準は同じになるが，JIS 規格では JIS 規格を引用し，JGS 基準では JGS 基準を引用するようにしてある。

(4) 赤本改訂版の英語名称について

赤本の英語名称について議論し，次のような順位で基準部会に上申する。

案 1 : Japanese Standards and Explanations of Laboratory Tests of Geomaterials
基準書であるということが理解でき，日本語との対応も良い。

案 2 : Japanese Standards for Geotechnical and Geoenvironmental Laboratory
Testing Methods -Standards and Explanations-
青本に準じた形である。意識であるが英語としては理解しやすい。

案 3 : Methods and Explanations of Laboratory Tests of Geomaterials
日本語との対応はよいが，英語からは基準書であることが読みとれない。

基準部会への上申書には，どのような議論が行われてきたかを記載し，参考に青本のタイトルも入れておく。

(5) 原稿の査読方法について

次のような解説の査読方法と日程を決定した。

- ・ 6 月末までに，各 WG 内で査読を行った原稿を提出する。
- ・ 7 月末までに，各 WG 内で，他の WG の解説案を査読する。取りまとめは各 WG 幹事が行う。
- ・ 8 月末までに，査読意見を各担当 WG 内で検討する。
- ・ 9 月末までに，修正原稿を他の WG で再査読を行う。
- ・ 10 月末までに，再査読意見を各担当 WG 内で検討する。
- ・ 12 月末までに，室内試験規格・基準委員会で全体の調整及び確認を行う。

(6) 赤本の仕様について

仕様は、二分冊箱入りとする。どちらにどの編を掲載するか決める必要がある。来年度予算案の関係から、9月までには印刷会社から見積もりを取る。

(7) 岩盤不連続面の一面せん断試験方法の解説について

岩盤不連続面の一面せん断試験方法の解説案が示された。現在、旧岩の委員会で査読中である。意見がある場合はできるだけ早い時期にいただきたい。基本的に赤本にすべて掲載する方向で考えるが、ページ制限で圧縮する必要がある場合は、小冊子等で成果を残す方法も検討する。誤植ということで、基準で使われている「用具」という言葉を「器具」に変更する。

(8) 今後のスケジュール

今後のスケジュールの再確認を行った。現在のところは順調に来ている。

(9) その他

特になし。

【報告事項】

(1) 解説原稿の執筆状況の報告

全体：

送付済みの書式で査読原稿を作成する。現段階では、図のフォント等は気にしなくて良い。転載許可は、印刷に出すまでに取っていただく。

WG1：

現在、原稿を査読中である。

WG2：

WG内にあがってきている原稿が示された。今後査読をしていく。

WG4：

土関係が少し遅れているようである。

WG5：

2月に大まかな原稿は出てきている。4月末までには完成度の高い原稿を出していただいてから査読を行う。

WG6：

7~8割は出来ており、来週には原稿を集めたい。その後査読を行う。「第1章 概説」はすべての原稿が出そろってから考える。

WG8：

一次原稿は出てきており、今後はリーダー、サブリーダー、幹事で読み直しを行っていく予定である。

(2) 室内試験規格・基準委員会幹事会の報告

幹事会の議事録が紹介された。基準部会に上申した英語基準の HP への掲載はペンディングとなっており、60 周年記念事業として成果公表が出来ないか検討していくこととなった。

(3) 基準部会の報告

基準部会の報告で重要なものは、資料 20-1-11 の幹事会議事録に示されている。

(4) その他

特になし。

次回委員会は、5 月には JIS 規格改正の公示結果が出そうなので、その結果を見て、集まる必要があるか決める。メール審議ですむ場合は、解説案が出そう 6 月以降となる。

以上